

編	集	後	記
---	---	---	---

施設の特集であるが、巻頭言より考えさせられることばかりで、今月号は歴史、現況、将来像にわたりいろいろな形でとらえられている。飯田氏の実直なご感想で“ひとが開発した技術を学んで自分のものとすることは当事者よりも工夫と努力が必要である”という言と、“日本には自主技術がほとんど生まれない”という点はリハビリテーションの分野で、今後苦勞と努力を重ねる必要性を促しておられる。

神奈川のリハビリテーションの流れに関する紹介はわが国における地方自治体のわくの中での可能性を追った例であり、問題は今後、建物をいかに患者の福祉に有効に活用出来るかを問う基礎として、リハビリテーションに関連する職種の教育・養成に各々の地方行政がどの程度真剣にとり組むかであろう。

リハビリテーションの流れにおける肢体不自由児施設に関しての寺沢論文、身障福祉法の歴史的背景の小池論文、身障等級表に関する児玉論文に故高木先生の功績がたたえられている。今後、pioneering individual 的 team effort の pioneer がチームワークを基本とする、リハビリテーションで全体的発展を促すようお願いしている。

授産施設とリハビリテーションの尾崎論文では、人権思想と生活圏拡大運動をもとに島根県で地道に活動を重ねてこられた尊いご体験から、哲学科ご出身の先生の理念がうかがわれる。

オイルショック、医学書院のストライキなどで読者の皆様に変惑をおかけしたこの「総合リハビリテーション」誌も、来年度よりはもとのページ数にもどれるであろうとの明るいニュースである。

ご意見・ご批判など、どしどし編集部までお寄せ下さるようお願い申し上げる次第である。

(荻島 秀男)

編集顧問

天 児 民 和	砂 原 茂 一
大 島 良 雄	津 山 直 一
小 池 文 英	水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙	荻 島 秀 男
上 田 敏	土 屋 弘 吉
大 井 淑 雄	横 山 巖
大 川 嗣 雄	

編集同人

赤 津 隆	橋 倉 一 裕
青 山 孝	平 方 義 信
今 田 拓	三 島 博 信
今 村 哲 夫	山 内 裕 雄
江 口 寿 栄 夫	渡 辺 英 夫
小 野 啓 郎	飯 田 卯 之 吉
河 邨 文 一 郎	遠 藤 千 恵 子
金 久 卓 也	小 川 孟
兼 松 英 夫	加 藤 一 郎
五 味 重 春	小 島 蓉 子
沢 村 誠 志	笹 沼 澄 子
杉 山 尚	鈴 木 明 子
中 村 裕	高 田 玲 子
野 島 元 雄	陳 慧 玉
間 得 之	野 本 卓
長谷川 恒雄	(以上五十音順、敬称略)

(担当：細田，田村，鹿島)